

婦人会報

立教183年 2月

令和2年
2020年



天理教婦人会旭日支部 通巻489号

立教一八三年 教会長夫妻研修会

去る一月二十四日、春季大祭祭典後、四階講堂にて教会長夫妻研修会が開催されました。

大教会長様の開講のご挨拶の後、本芝大教会部属本芝福分教会長 小松崎義博先生を講師にお迎えし、『みかぐらうたの歌い方』について、ご講話いただきました。

先生はまず「教祖伝逸話篇」をもとに、みかぐらうたをどのように歌うのかについてお話し下さいました。



一八 理の歌 (抜粋)
十二下りのお歌が出来た時に、
教祖は、

「これが、つとめの歌や。どんな節を付けたらよいか、皆めいめに思うように歌うてみよ。」

と仰せられた。そこで、皆の者が、めいめに歌うたところ、それを聞いておられた教祖は、
「皆、歌うてくれたが、そういうふうには歌うのではない。こういうふうには歌うのや。」

と、みずから声を張り上げて、お歌い下された。

三代真柱様は、昭和三十年音楽研究会にて「地唄、鳴物については、今では、これが正しいというものは無いと言っても過言ではないといえよう。聞き伝えによつて伝承されてきたが故に、永久にこれが教祖のお教え頂いた正しいものだということは、言えないのではないかとさえ考えられる。」また、教祖が「こういうふうには歌うのや」と教えて下さった歌い方は、今はもうわからない。それではどう歌えば良いのか。というお言葉を残されています。

二代真柱様や三代真柱様はじめ大勢の先生方が、みかぐらうたの歌い方に様々にご苦心下されたお話を聞かせて頂きました。

そして昭和四十九年、三代真柱様はみかぐらうたのカセットテープをお作り下さいました。

私たちは、みかぐらうたをどのように歌えば良いのか。それは、三代真柱様の歌われるように歌えば良いということです。前述の音楽研究会でのお言葉の中に、「ある程度の基準が申し合わされた上は、出来る限り、それに合わせる努力をすることは大事である。年寄った人はともかく、特に若い人たちに對しては強調したい点である」とあります。月次祭、朝夕のおつとめで、三代真柱様の声に合わせて歌うことを意識することが大切でありますと、教えて頂きました。

そして、三代真柱様の地唄を詳しく解説して頂き、全員で三代真柱様のお声に合わせて唱和し、歌い方を練習させて頂きました。

最後に、三代真柱様のみかぐらうたのお歌をしつかり聞いて、聞いた通りに歌うように努力する。おつとめの音は一つであり、それに合わせていくことが大切になる。それが、自分の癖性分を取らせて頂



女鳴物練習

下記の月の大教会月次祭祭典終了後、1時より約1時間の予定で、女鳴物(琴・三味線・胡弓)の練習をさせていただきます。どなたでもご参加頂けます。また、初心者の方も奮ってご参加下さい。

◇参加を希望されます方は、教会を通して練習月の23日までに鳴物係、又は事務所へお申し込み下さい。

練習月…3・4・6・8・9・11月

場所…1号館2階213～215

くことにもつながる。そして、親神様、教祖にお勇み頂き、霊様方にお喜び頂けるようなおつとめを目指して頂きたいと締めくくられました。
閉講にあたり、総務部長の松田清重先生より御挨拶を頂きました。

子育てに思う」

櫛本委員部 松田 和代

子どもとは何と可愛いものでしょう。乳幼児を見つめることは神様の光を見つめることのようにも感じられます。私は子どもが好きで、出かけた先でも、エレベーターの中でも、微笑ましい母子の姿を眺めるだけで泣けてきたりします。乳幼児はどの子も神を宿しているようで、思わず あなたはどこから来たの」と心の中で尋ねてしまいます。娘の出産に立ち会いました時、思わず よく来たね。よく来たね。」と神秘的な出会いの瞬間に心が震えました。

あづかれる宝にも似てあるときは

『吾子ながらかひな畏れつつ抱く』

上皇后さまが天皇を出産された年 昭和三十六年）
にお詠みになった御歌です。

私の産ませていただいたこの子は神様からおあずかりした宝です。我が子であります、時には震えるような思いで抱いています。）というような意でしょうか。天皇となる子を産ませていただいたという畏れを



仰っているのですが、込められた思いはそれだけではないでしょう。子どもは皆、神様からおあずかりしたもので、教祖がお伝えくださいましたように人間は皆神の子、出産の神秘的な経験は、その時母になる誰をもそう思わせると思います。けれども、子育ての苦労が始まると、あの日の感動を忘れて、もっとこうなればいいとか、こんなはずじゃないとか、欲の心も湧いてきます。

自分の子育てを思い返しますと、六人も産ませて頂き神様のご守護を目の当たりにしながら、また、幼子の澄んだ眼差しと一緒に自分も風や空や草花などの神様のお恵みを見ていたはずなのに、また、周りの方々からは愛情いっぱいにお育ていただいたのに、そんな出来事を、どうしてもっと自分の人生の記録に丁寧に刻み込んで、大切にして生きて来なかったの、だろうと後悔に駆られます。

走り去るように子育てが終わりましたが、今、大教会の婦人会においては後継者係をさせていただき、たくさん乳幼児と接する機会をお与えいただきました。若いお母さん達には、この神秘的な母子一体の子育ての時間を、どうか大切に過ごして欲しいと願うばかりです。さらには、大切に過ごすという意味を深く思索

して欲しいと願います。

また、私は、祖母という立場で孫に接していますと、ますます自分の過ぎてしまった子育てを残念に思い、ただ生きることに必死で周囲の目ばかりを気にして心に余裕なく、子どもにかけられなかった神様の光を見るような眼差しを、ゆっくりと孫に向けて接してみたいと思います。

子育て最中の一生懸命頑張っている次代の人たちに祖父母力は大切な力です。

・直接的でなく間接的で、

・強く抱きかかえるのではなくて温かく

見守るような、

・歩んできた長い時間枠で眺めて

そんなことはたいしたことはないよ」

と笑い飛ばしてやれるような、

そんな祖父母力を子育て中の親子に添えてあげたいらいのではないかと思えます。

これからも上皇后様の御歌を思い出しながら子育て中の母子に祝福を送っていきたいと思えます。

婦人会活動方針に 実のようぼくに育ち育てましよう」とありますが、夫婦・親子・家庭の治まりがなければ、一歩も前へ進むことが出来ません。婦人会創立



百十周年の旬に成人させていた。だこうと言いなながら、謳い文句だけになってしまわぬよう、まずは、女子力、妻力、祖父母力が親神様の定規にかなっているかと反省し、若いお母さん達は祖父母力を上手に戴いて、我々祖父母は宝物を育てる息子娘嫁達を温かく見守り、子どもという宝が、陽気ぐらしのできる「神の子」にふさわしい人間に育つよう、家族力を合わせる事が、自らも「神の子」として実のよふぼくに育つことに繋がるのではないかと、今しみじみ思っているところです。

近年一般的に三世代同居はほとんどなくなってまいりましたが、同居・別居にかかわらず、なんとか、この道を行く我々から、陽気ぐらしをお待ちくださる神様の思いに叶うような祖父母力を発揮して子育てを見守り、若い人達を育てていきたい、そして世の中もそのような仕組みづくりに動き出す世にならないかと憂慮しているところです。



立教百八十三年委員部長講習会（第四十七回）のご案内

・日時 令和二年二月二十五日（火）

午前九時十五分

受付

三十分

開講

おつとめ

十時

講演

・場所 旭日大教会

・内容 講演 『大人の発達障害について』ーその理解と支援ー

講師：杉岡信宏先生

ひのきしんスクール運営委員

錦江大教会部属 綿行分教会長

大教会長様御挨拶

支部長挨拶

ねりあい

・参加費 一、〇〇〇円

・携行品 ハッピー・筆記用具

※託児を希望されます方は、直属を通してお申し込み下さい。

※宿泊されます方は各自で大教会事務所までお申し込み下さい。

※代理の方が出席の場合は、直属を通して、その旨をご報告下さい。

9:15	受付	一階ロビー
9:30	開講 おつとめ	神殿
10:00	講演 『大人の発達障害について』 講師 杉岡信宏先生	四階講堂
12:00	昼食 ねりあい	一号館各部屋
14:00	大教会長様御挨拶 支部長挨拶 新委員部長紹介 各係より連絡	四階講堂
15:00	閉講	神殿



三月例会案内

日時 三月五日(木) 午前十時
 場所 旭日大教会
 内容 教祖祭
 てをどりまなび
 おふでさき拝読
 お話(八つのほこり「うらみ」)

日川原委員部 生駒恵美子
 昼食
 大教会ひのきしん

女子青年例会案内

日時 二月二十二日(土) 午後三時
 内容 反省会



三月例会役割

属者	村井 明子	庄司 英美
賛者	岡本 愛	前田 理恵
指図方	岩崎 初代	
地方	前半	後半
笛	大倭	鷺尾
ちゃんぽん	"	"
拍子木	纏向	旭道
太鼓	大牧	"
すり鉦	竹ノ宮	"
小鼓	"	"
琴	十津川	旭波
三味線	"	"
胡弓	"	日川原

三月月次祭当番

※責任者・係員の方は九時、ひのきしん者の方は九時十五分にご集音下さい。

教会	櫛本 旭道 旭波	炊事当番
係員	○庄司 裕美子 松田 直美	
教会	斑鳩 朝和	託児当番
係員	○南本のぞみ 松田 美左与	

発行日 令和二年二月五日

発行者 岡本道子

発行所 天理市田井庄町一二八

天理教婦人会旭日支部